

中国黒龍江省の対ロシア貿易

平泉秀樹

— 辺境貿易を中心に —

近年、中ロ貿易は急激な発展を示しており、その中で、中国東北部にある黒龍江省が重要な位置を占めている。黒龍江省は、海を持たない内陸地方であることやロシアと三〇〇〇キロメートル以上に及ぶ長大な国境線を接していることなどから、最大の貿易相手国はロシアである。黒龍江省の対ロシア貿易（旧ソ連邦時代を含む）は、一九五〇年代半ばに始まった。当初は、公的機関の協定に基づく易貨辺境貿易として始まったが、一九九〇年代以降は民間企業間の辺境貿易として一般貿易へと発展してきた。特に、二〇〇〇年代に入って貿易額は急激に拡大した。本稿では、黒龍江省の対ロシア貿易を概観し、対ロシア貿易における辺境貿易の役割を検討するとともに、若干の展望を行う。なお、本稿で「辺境貿易」とは、中国国境地区と隣接する外国の国境地区との間で行われている地方間貿易のうち、中国政府が規定に基づき地方に対して一定の優遇措置を講じている貿易を指すものとする。

● 一九五〇年代～八〇年代の対ロシア貿易の概観

歴史的に見て、現在の中国黒龍江省地域における対外貿易は、この地域がもつ対外関係の歴史や国境線の長さという点からもロシアとの関係が主要であった。現在の中ロ国境地域における交易が両国政府によって正式に認められたのは、清国とロシア帝国が初めて国境を画定した一六八九年の尼布楚（ネルチンスク）条約によるといわれている。同条約第五項は、証明書をもっている中国人とロシア

人は国境を往来し、相手国の領土で交易を行えることを、両国間で初めて確認した。その後、この地域では長い民間貿易が行われてきたが、中華人民共和国の成立と貿易の国家独占制度の下で、中ロ国境地方間の交易は当初、国家から例外的に認められた特殊な貿易形式で行われるようになった。陸地国境を接する地方間の貿易は、一般に「国境貿易」と呼ばれることがあるが、中国では「辺境貿易」とよび、辺境貿易を行える資格者を制限するとともに、税制上の優遇措置を与えてきた。このような中国における「辺境貿易」の特殊性のため、以下、本稿では「辺境貿易」を用いる。

黒龍江省の対ロシア貿易は一九五七年に公的貿易機関同士による「辺境貿易」形式で始まったが、中ソ対立、文化大革命などの影響により、一九六七年には中断された。一九八三年に対ロシア辺境貿易が再開された後、中国における貿易制度の改革とともに貿易権が民間企業にも開放され、現在では、「辺境貿易」だけでなく一般貿易も行われるようになった。

1 一九五〇年代半ば～六〇年代半ば

中国とロシアの国境地帯では長年にわたり、国境地区住民の間で国境をまたいだ小規模な交易がおこなわれていたが、第二次世界大戦の影響によって中断されていた。

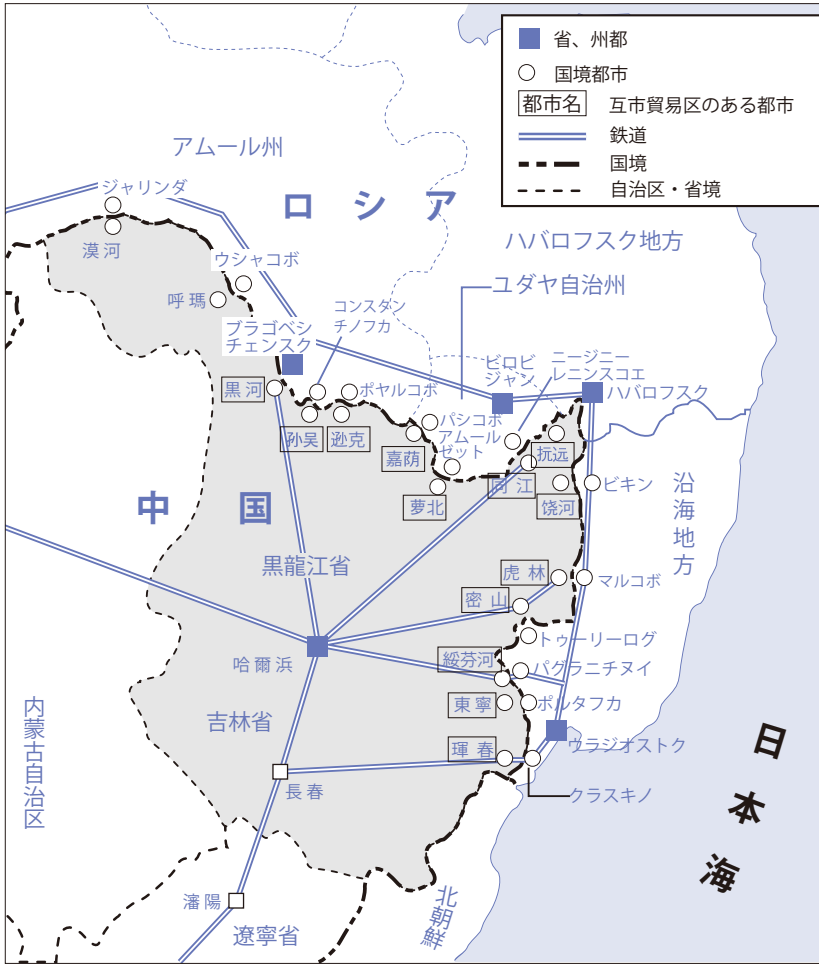
一九四九年の中華人民共和国成立、一九五一年中ソ国交樹立を経て、ソ連邦から中国への経済援助が中国東北地区を重点にはじめら

表1 黒龍江省と極東地域の辺境易貨貿易 (単位：万ルーブル)

	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	合計
輸出	3	147.6	421.4	308.6	195.2	214.3	228.8	—	210.3	8.8	1738

(出所)『黒龍江省志・対外经济贸易志 [235]』。
(注) 輸出と輸入は同額であるため、輸入は記載していない。

図1 黒龍江省とロシア極東地域国境地区



(注) 黒龍江省は、ロシア極東地域と直接、国境を接する地級行政区(大興安嶺、黒河、伊春、鶴崗、佳木斯、双鴨山、鶏西、牡丹江)、極東地域はアムール州、ユダヤ自治州、ハバロフスク地方およびプリモリーエ地方。

この時期の辺境貿易は、相互に貿易商品の展覧会を行い、その中で品目を取り決め、契約を締結するという方法(記帳貿易)をとった。商品価格はルーブルで算定し、原則として等価の物々交換でお

こなわれた。貿易品目協定は、一九五七年当初は黒龍江省政府所属の黒河地区事務所(专员公署) 商業局とアムール州消費協力社の間で行われ、一九五八年には黒龍江省牡丹江地区事務所商業局とソ連邦プリモリーエ地方消費協力社、黒龍江省合江地区事務所商業局とハバロフスク地方消費協力社の間でもおこなわれるようになった。その後、中国側貿易組織の改編により、上記三地区商業局に属する各貿易会社は黒龍江省貿易会社に統合された。この時期、国境間の地方貿易は、中ソ双方とも公的貿易機関が実施し、長い伝統を持つ住民間の交易(互市貿易)は再開されなかった。

黒龍江省におけるこのような貿易は一九五七年から一九六六年まで続いたが、貿易開始三年後の一九五九年を最高として、その後、貿易額は減少した。一九六四年には貿易協定(契約)は行われず、一九六七年以降、黒龍江省の対ソ連邦辺境貿易は完全に停止した。一九五七～六六年の黒龍江省の対ソ連邦辺境貿易輸出入累計額は三四七六万ルーブル(一・四六億元相当)であった(表1)。黒龍江省からの主要輸出品は、大豆、トウモロコシ、高粱、小麦、生肉、肉製品、缶詰などの食品と軽工業品、紡織品、工芸品など、黒龍江省の主要輸入品は自動車、オートバイ、自転車、汽船、トラクター、ガソリン、機械油、鋼材、機械、金属製品、マッチ、ろうそくなどであった。

2 一九八〇年代

一九八〇年代は一九六七年に中断した地方間貿易(辺境貿易)が再開され、その基礎が固められ始めた時期である。この時期以降の地方間貿易には、中ソ国境で長い伝統を持つ住民間の「互市貿易」が復活した。

一九八二年四月、中ソ両国政府は貿易に関する議定書を締結し、地方間貿易を再開することで合意した。この合意では、中ソ二対の通商口(黒龍江省綏芬河市・プリモリーエ地方クドロポ区、内蒙古自治区滿洲里市・チタ州ザバイカリスク区)を通して地方間貿易を再開することとされた。貿易方式は易貨(バター)貿易とし、計算単位はスイスフラン、商品価格は原則として当時の国家間貿易

表2 黒龍江省の対ソ連邦国境貿易 (単位: 万スイスフラン、万ドル相当)

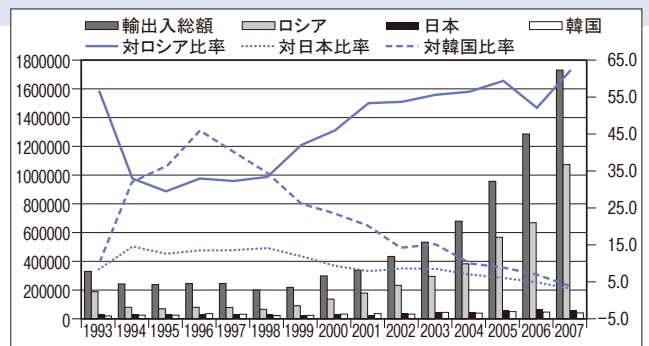
	輸出入総額		輸出額		輸入額	
	万スイスフラン	万ドル	万スイスフラン	万ドル	万スイスフラン	万ドル
1983	1589.4	(749.1)	817.7	(385.1)	772.8	(364)
1984	2791	(1146.6)	1373	(564.1)	1418	(582.5)
1985	3255	1330	1593	651	1662	679
1986		1445				
1987	4757.7	2326	2466.8	1132	2290.9	1194
1988	19614	9529	11298	5194	8316	4335
1989	57047		33644		23403	
1990	71985		34397		37588	
1991	106417		52595		53822	
1992	207168	158976	106440	84609	100728	77760

(出所) 「中国対外貿易経済年鑑」各年版の黒龍江省の部分。カッコ内は、「黒龍江省志・対外貿易貿易志」。

(注) ドル表示は、出所資料記載の当該年度のスイスフラン等価換算額。

図2 貿易推移と各国比率

(単位: 万米ドル、%)



(出所) 黒龍江省統計年鑑、各年版より作成。

(注) 貿易額は左軸、各国比率は右軸。

協定の設定価格を用いることとした。取引は、黒龍江省貿易公司および内蒙古自治区貿易公司とソ連邦極東外国貿易合同(ダリントルグ)の間で行われた。この合意に基づく貿易は一九八三年に始まった。このようなバーター貿易は一九八七年には黒河市とブラゴビシチェンスク市、黒龍江省同江市とユダヤ自治州ニージーレーニンスコエ区の間でも再開された。さらに、一九八八年には、黒龍江省、吉林省、内蒙古自治区と新疆ウイグル自治区および全国の省都などに対して、対ソ連邦貿易権が与えられた。これにあわせて一九八九年には黒龍江省ではすでに開放されていた三市に加えて、密山、虎林、饶河、漠河、嘉陰、萝北など六カ所の通商口(口岸)が開放された(図1参照)。

この時期の黒龍江省の対ソ連邦国境貿易は一九八三年の一五八九万スイスフラン(七四九万ドル相当)から一九九二年の二〇億七二〇〇万スイスフラン(二五・九億米ドル相当)へと増大した(表2)。

●一九九〇年代以降の対ロシア貿易

この時期の対ロシア貿易には、中国、ロシアの国内環境と国家間関係の変化が大きく作用した。特に、一九九〇年代初めには、一九九一年末のソ連邦解体、一九九二年の鄧小平による「南巡講話」などが大きな影響を与えた。ソ連邦解体後のロシアでは市場経済へと移行する中で貿易の国家独占は廃止され、自由化された。中国でも「南巡講話」後、改革開放がさらに促進された。この年、開放政策は内陸沿辺(国境)地方にも拡大され、すでに実施されていた沿海、沿江とあわせて全方位的な開放政策が構築された。このことは、これまで国家の最重要政策である東部沿海地区開放政策とは別の経路で進展していた内陸国境地区における対外的地方間経済交流も、開放政策の大きな流れに合流したといえる。

一九九〇年代は、中国の国境貿易制度に関する重要な規定が

次々と出され、制度的基盤が確立された時期でもある。対ロシア国境地方に関して言えば、一九九二年三月、國務院は「黒河等四边境都市をさらに開放することに關する通知(关于进一步对外开放黒河等四个边境城市的通知)」を公布した。本通知は、ロシア・CIS諸国との国境貿易と地方貿易を積極的に拡大し、投資協力、技術交流、労務協力などの多様な経済協力を発展させ、当該地区の加工業と第三次産業を發展させることが必要であると述べている。このため地方(黒龍江省および内蒙古自治区)の権限の一部を地区(黒河、綏芬河、同江および滿洲里)に移譲すること、輸出農業育成のための優遇税制、域外からの投資引き入れのための優遇税制、国境経済協力区の建設を含むその他の優遇措置が取られた。

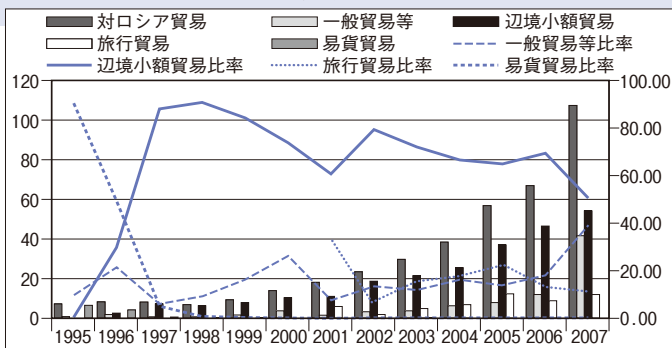
二〇〇〇年代には、二〇〇一年七月の中ロ政府間「善隣・友好・協力」条約の締結、二〇〇四年一〇月の領土問題の最終的解決があり、両国関係が新たな發展段階に進んだ。

1 黒龍江省の対ロシア貿易と国境貿易

(1) 対ロシア貿易の推移とその要因

黒龍江省の対ロシア貿易は、上述したような一九九〇年代初めの両国における環境変化の影響を受けて、一九九三年まで急激に拡大した。しかし、一九九〇年代以降を全体としてみると、一九九〇年代を通じて低迷し、二〇〇〇年代初めから急速に發展したことがわかる(図2および付表1)。対ロシア貿易は一九九三年に、それまでで最高の一八億九三四万米ドルを記録したが、一九九四年には八億八二万米ドルにまで急激に低下した後、長い低迷期に入った(七・九億米ドル)。これにはいくつかの原因があるが、輸出面では黒龍江省が相手とするロシア極東地域の経済が一九九四年以降急激に悪化し始めたこと(一九九四年の鉱工業生産指数は対前年度二三・三%減と一九九〇年以降最大を記録したが、その後も一九九八年まで毎年マイナス成長であった)、ロシア人による中国製消費財(偽ブランドや低品質製品)に対する敬遠、ロシア人による中国からの輸入規制政策(高関税化)などがあり、他方、輸入面では中国の経済引き締

図3 黒龍江省の対ロシア貿易形式



(出所)「黒龍江省統計年鑑」各年版。
 (注) 貿易額は左目盛り(単位: 億米ドル)。比率は右目盛り(単位: %)。

付表1 中国と黒龍江省の対ロシア貿易 (単位: 万ドル)

年	中国			黒龍江省		
	総額	輸出	輸入	総額	輸出	輸入
1993	767265	269175	498090	189344	84265	105079
1994	507599	158079	349520	80082	29118	50964
1995	546330	166466	379864	70265	21040	49225
1996	684448	169271	515176	80257	20988	59268
1997	612376	203806	408570	79306	32954	46351
1998	548094	183993	364100	66970	17583	49388
1999	571993	149729	422263	91670	23198	68472
2000	800324	223335	576989	137178	46340	90838
2001	1066926	271047	795879	179891	77952	101939
2002	1192743	352074	840669	233268	97221	136047
2003	1575799	602992	972806	295505	163802	131703
2004	2122552	909811	1212741	382298	215352	166946
2005	2910122	1321128	1588994	567643	383644	184000
2006	3338681	1583248	1755432	668693	453956	214737
2007	4815477	2846619	1968857	1072789	817047	255742

(出所) 中国の対ロシア貿易は「中国海关統計年鑑」。黒龍江省の対ロシア貿易は「黒龍江省統計年鑑」各年版。

め策による原材料需要の減少が大きな要因として挙げられる。

対ロシア貿易の低迷は、一九九九年からは一転して回復軌道に乗り、二〇〇二年(三億三三六八万米ドル)には一九九三年の最高額を上回り、その後急激な拡大続けた(二〇〇七年は一〇七億二七八九万米ドル)。このような二〇〇〇年代以降の急激な対ロシア貿易の増加は、上述した中国とロシアの国家間関係が改善・強固化されたという要因のほかに、ロシア極東経済の復興過程が大きな影響を与えたと考えられる。極東地域の地域総生産は一九九八年(ロシアおよび極東経済の低下の最後の年)を基準(一〇〇)としたとき、二〇〇五年には一四・九にまで拡大した。このことは、特に勤労者の所得を増加(消費意欲を増大させ、極東地域の消費財輸入を拡大させたと考えられる)。

今、黒龍江省側から見た対ロシア貿易の輸出と輸入の伸びの関係をしてみると、このことが確認できる。輸出の伸びが輸入を上回るようになったのは二〇〇〇年からであり、一九九九年(付表1)。黒龍江省貿易統計には、対ロシア貿易の輸出入商品内訳がないため、輸出商品の推移を厳密に調べることはできないが、図2が示すように黒龍江省全体の貿易と対ロシア貿易の動向が連動しているため、黒龍江省貿易の輸出商品動向によって、対ロシア貿易における商品動向もかなりの程度理解できると考えられる。輸出商品内訳のデータが取れる二〇〇五〜二〇〇七年に、輸出拡大に大きく寄与したのは主として日用消費財であり、衣類(増加額四億七一九九万米ドル、輸出増加総額に占める比率四八・六%)と靴類(六億一九九六万米ドル、同七・二%)で増加額の五六%を占めている。その他に大きな増加を示したのは、機械・電気製品(一七億三九一〇万米ドル、同二〇・三%)であった。このことから、二〇〇〇年以降の対ロ

シア貿易の急激な拡大は、主として日用消費財の輸出拡大によってもたらされたものであることが分かる。

(2) 黒龍江省の対ロシア貿易における辺境貿易

黒龍江省の対ロシア貿易は、当初「辺境貿易」という形式で始まったが、現在では様々な形式で行われている(図3)。現在、黒龍江省の対ロシア貿易の主要な形式は辺境小額貿易、一般貿易等、旅行買物貿易である(二〇〇七年、各々五〇・三%、三八・五%、一一%)。中国で辺境貿易とは、下述するように「辺境小額貿易」と「互市貿易」を指しているが、黒龍江省ではこの地方独特の貿易方式として「旅行買物貿易」が含まれる。黒龍江省の対ロシア貿易に占める辺境貿易の比率は、一九九七年以降八〜九割を占めており(二〇〇七年は六一%)、極めて大きな役割を担っている。

黒龍江省統計年鑑では、一九九三年から通関統計による貿易形式毎の数字が記載されるようになった。この年、黒龍江省の貿易に占める一般貿易の比率は貿易額全体の二五%、辺境小額貿易はほぼ〇%、易貨貿易六一・二%、輸入材による加工貿易六・四%であった。この年辺境小額貿易がほぼ〇%であるのは、おそらく易貨貿易が元来の協定辺境貿易を指し、辺境小額貿易が民間企業による辺境貿易を指しているからであると考えられる(一九九一年の國務院事務所の回付「経貿部などの辺境貿易と経済協力を積極的に発展させ、辺境の繁栄と安定を促進させる意見に関する通知の回付(关于积极发展边境贸易和经贸合作促进边疆繁荣稳定意见的通知)」では、「辺境貿易」の主要な形式は辺境小額貿易と辺民互市貿易であると規定されている)。このうち、協定易貨貿易は急速に減少してゆき、代わって辺境小額貿易が増加し始めた。

以下では、黒龍江省の辺境貿易の形式とその仕組みについて述べる。
 (1) 辺境小額貿易と辺民互市貿易

中国では、一九八四年以降、辺境貿易に関する政策がたびたび公布され、主として税制上の優遇措置を与えてきた。これは、黒龍江

	中国辺境貿易			黒龍江省辺境貿易			黒龍江省辺境小額貿易		黒龍江省旅行貿易	
	総額	輸出	輸入	総額	輸出	輸入	輸出入総額	輸出額	輸入額	輸出額
1993	54796.8	36854.9	17941.9	49	49	0	49	49	0	-
1994	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1995	34031.8	20560.5	13471.3	-	-	-	-	-	-	-
1996	100205.4	3827.6	61929.4	23536	7073	16463	23536	7073	16463	-
1997	188403.7	76351.9	112051.8	69909	2714	42769	69909	2714	42769	-
1998	201740.5	80450.4	121290.1	60661	12477	48184	60661	12477	48184	-
1999	314329.0	122628.1	191700.9	77115	12016	65099	77115	12016	65099	-
2000	456581.1	133193.6	323387.5	101365	14476	86889	101365	14476	86889	-
2001	412457.2	84056.8	328400.4	165775	69919	95856	109162	13306	95856	56613
2002	569673.1	182644.1	387029.0	202732	8833	114402	185405	71003	114402	17327
2003	777993.1	347555.1	430438.0	260545	149849	110696	213095	102399	110696	47450
2004	947484.4	443130.6	504353.8	320912	192578	128334	254014	125680	128334	66898
2005	1313121.0	740894.3	572226.7	489956	345953	144003	368537	224534	144003	121419
2006	1615708.0	994306.2	621402.1	551799	392554	159245	465210	305965	159245	86589
2007	2131114.0	1371005.9	760108.1	658656	469651	189005	540529	351524	189005	118127

(出所) 中国辺境貿易は「中国海关统计年鉴」。黒龍江省辺境小額貿易の1993～2006年は「黒龍江省統計年鉴」各年版、2007年は黒龍江省統計局「黒龍江省国民经济和社会发展统计公报」。黒龍江省旅行貿易の2001年～2005年は「十五」时期黒龍江省対俄貿易综述」、2006、2007年は「黒龍江省統計年鉴」中の貿易形式「その他」の数字。

(注) 中国辺境貿易は、出所原典では単位が千米ドルであるが、本表では黒龍江省の辺境貿易に合わせて万米ドル単位に変更してある。なお、本表の黒龍江省辺境貿易は、辺境小額貿易と旅行貿易の合計であり、黒龍江省統計年鉴にはない。

省の対ロシア辺境貿易だけでなく、中国国境地区におけるすべての辺境貿易に対して適用されている。中国国務院が一九九六年一月に公布した「辺境貿易関連問題についての通知(关于边境贸易有关问题的通知)」によれば、「辺境貿易」には「辺境小額貿易」と「辺民互市貿易」の二つの形式がある。

辺境小額貿易は、国家が対外開放を許可した陸地国境地区の県(旗)、辺境市管内(これらを「辺境地区」と呼ぶ)の辺境小額貿易権を有する企業が、国が定める陸地の国境口岸を経由して隣国国境地区の企業もしくはその他の貿易機関との間で行う貿易活動をさす。辺境小額貿易企業は、国境地方の地域総生産、輸入額および当該地区の実情を勘案して、国が総数を定め、その範囲内で当該地方政府が審査・決定する。

辺民互市貿易は、国境地区住民が国境線二〇キロメートル以内の政府が許可した開放地点もしくは指定された市場で、規定を超えない金額もしくは数量の範囲で行う商品交換活動を指す。中口国境地帯には辺民互市貿易が行われる「互市貿易区」が二カ所もつけられており、そのうち黒龍江省には一〇ヶ所設けられている(図1参照)。

これまで、辺境貿易に対する優遇策として小額貿易の輸入には輸入関税などの半額徴収、輸出には間接税の還付制度が、互市貿易には一人三〇〇〇元までの輸入に対して関税の免税措置制度があったが、二〇〇八年一月以降、小額貿易の輸入に対する輸入関税などの半額徴収制度が廃止されるとともに、互市貿易の免税制限金額は三〇〇〇元から八〇〇〇元に拡大された(国務院「辺境地区の経済貿易発展問題促進に関する回答(关于促进边境地区经济贸易发展问题的批复) 二〇〇八年一月」)。

なお、黒龍江省の辺境小額貿易は、一九九六年の二・三四億米ドルから二〇〇七年には五四・〇五億米ドルにまで増大した。一方、互市貿易については発表されていない。

〈2〉旅行貿易

旅行貿易は、二〇〇〇年後半から貿易統計に計上されるように

なった黒龍江省特有の貿易である。旅行貿易は、黒龍江省の対ロシア貿易においてその交易額が第三位を占める位置にあり、黒龍江省の辺境貿易(輸出)に占める比率は二〇〇五年には三五%に達した。貿易額は、二〇〇五年には一二億米ドルに達したが、二〇〇六年以降減少している。これはロシアにおける対中国国境貿易に対する政策の変更が大きく作用している。ロシア政府は、二〇〇六年二月二六日以降、ロシア人の海外からの無税持込みを、これまでの一人一週間に一度五〇キロから一人一カ月に一度三五キロに変更した。さらに、二〇〇七年からは、ロシア国内で外国人による小売業への従事を全面禁止した。

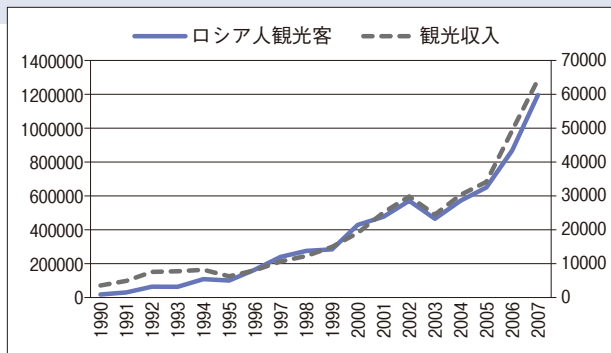
旅行貿易とは、ロシア商人にとっては旅行手続きで中国国境地区に入国し、商品購入後、それをロシアに輸出する行為(辺境旅行買物貿易)であり、中国商人にとっては商品をロシアに委託発送(輸出)する行為である(その後、旅行形式でロシアに入国し、委託発送した商品を受け取る)。ロシア国内に輸出された商品は、様々なルートを通じてロシア国内各地で販売される。このような方式の貿易はソ連邦の経済が混乱、疲弊し始めた一九八〇年代末から始まったこの地域特有の貿易であり、黒龍江省の対ロシア貿易(輸出)、特に国境都市の輸出にとって大きな意味を持っている。現在公表されている旅行貿易額は、通関などの技術的な問題から、旅行貿易全体の一端に過ぎず、旅行貿易の全容把握は困難であると考えられている。少しデータは古いが、一九九五～九九年の中口旅行貿易は一〇〇億ドルに達し、そのうち三分の二は中国商人によるもの、三分の一はロシア商人によるものであると考えられている。綏芬河市では一九九五～九九年の輸出総額に占める旅行貿易の比率は年平均七七%、一九九六年には八三・七%に達したといわれている(迟庆林「中俄边境贸易寻求新突破」东北亚论坛二〇〇一・三)。

(ロシア商人)

ロシア人の中国国内での商品購入・発送方式は、旅行貿易に対するロシアの法律改変に伴って変化してきた。中口国境地区では

図4 黒龍江省の観光統計

(単位：人、万米ドル)



(出所)「黒龍江省統計年鑑」各年版。
(注) 左軸は観光客数(単位:人)、右軸は観光収入(単位:万米ドル)。



アムール川兩岸

一九八八年に黒龍江省黒河市とアムール州ブラゴベシチェンスク間で「日帰りグループ旅行」制度がはじめられたが、その後、「日帰り旅行」は国境地区のあちこちで行われるようになり、旅行の期間も一日から三日、一週間と拡大していった。このようなグループ旅行は入国ビザが免除されるため、多くのロシア人に買物ツアーとして利用されている。

当初、ロシア人は個人の旅行者として、中国の国境都市で自ら買物をして、それを携帯・身につけて帰国する、という形をとっていた。一九九四年にロシアは中国からの商品輸入に対して関税をかけ、個人持込み一週間に一度五〇キロ以下の商品持込みに対しては関税無税とする制度を導入した。ロシア商人たちはこの旅行形式による中国への入国を利用して、中国国内で大量の商品を買付け、それをロシアに持ち込み始めた。しかし、関税免除の上限額は二〇〇六年に、三〇日に一度三五キロに変更された。これ以後、ロシア人による旅行買物貿易のやり方には大きな変化が見られるようになった。旅行者は、観光会社が企画・募集する「エコノムツアー」とよばれる個人ビザ免除のグループ旅行(利用者は、旅行代金が免除もしくは割引される)を利用する。旅行者は、中国の国境都市で観光を楽しむとともに、個人が無税でロシアに持ち込める三五キロの範囲のうち少量の個人用買物(通常二〜三キロ)を買うことができる。残りの部分は、観光会社が事前に中国側パートナーに依頼しておいた商品である。中国側の通関時、小分けされた包みが旅行者に手渡され、ロシア人旅行者はロシア入国時、それを自分のものとして申告・通関する。通関後、商品の包みは再度集められ、観光会社からロシア商人に引き渡される。このような旅行者は交易がおこなわれる地方によって呼び方が異なっている。プリモリーエ地方では「パマガイカ(Помгайка)」、ハバロフスク地方周辺では「キルピチ(кирпич)」、アムール州やチタザバイカリストク区周辺では「ケメル(кемел)」「フォナリ(фонарь)」などと呼ばれている。

旅行買物貿易は外国人旅行者を介する交易であるので、黒龍江

省への外国人観光客の来訪状況を見ておくことにしよう。黒龍江省への外国人観光客の訪問は、一九九〇年には一万三二七人に過ぎなかったが、ソ連邦解体後の一九九二年には五万九五〇二人に急増し、その後も二〇〇三年を除き一貫して増加し続け、二〇〇六年には九万九四八一人に達した。外国人観光客のうち最大の比率を占めるのは、ロシア人である。一九九〇年には黒龍江省を訪れた外国人の三八・八%であったが、二〇〇六年には八七・一%にまで増大している。ロシア人の比率が五割を超えたのは一九九二年(六七・五%)からである。その後、一九九六〜九九年は七〇%台に増加し、二〇〇〇年以降は八〇%台を維持している(図4)。

外国人が最も多く訪れる地区はロシアと国境を接する国境地区である。国境地区と非国境地区への外国人観光客の比率(二〇〇七年)は、国境地区八三・八%、非国境地区二六・二%である。ロシア人にとつて黒龍江省の省都ハルビンは、かつてロシア人が多く住んだ町であり、ロシア風建築物も今なお残る、特別に感慨を持つ都市であるが、外国人観光客の比率は高くない(二〇〇七年、一五・三%)。もっとも多くの外国人を引きつけているのは黒龍江省の対ロシア貿易の大拠点である綏芬河市と東寧市を有している牡丹江市である(二〇〇七年、五七・二%)。それに次いで大きいのは、やはり対ロシア貿易拠点である黒河である(一七・三%)。「パマガイカ」の多くも綏芬河、東寧、黒河を利用して、旅行買物貿易をおこなっている。このような年々の観光客の増大に合わせて、黒龍江省の観光収入も増大している。一九九〇年の観光収入は三三三二万ドルに過ぎなかったが、二〇〇六年には四億九三三三万ドルと一四・八倍にも達している。また、観光客の来訪は、外国人相手のホテル、飲食店、商店、貿易仲介などのサービス産業を、税関や互市貿易区のある国境都市の一大産業に発展させている。

(中国商人)

中国商人は、中国からロシアに自己あての商品を税、手数料込み



東寧互市貿易区

で貿易代理会社に通関・輸送を委託（輸出）し、旅行形式でロシアに入学し、商品を受け取り、卸売・小売市場で商品を販売する。貿易代理会社は、複数の業者の輸出をまとめて一つの輸出として通関を行う。その際、通関申告額は実際価格の10分の1ほど（「灰色通関」と呼ばれている）が相場であるといわれており、ロシアにとって関税収入が少なくなる被害が出ている。このため、ロシア政府はたびたび市場での商品調査と没収を繰り返してきたが、灰色通関による商品の販売を根絶するため、2007年4月以降、外国人によるロシア国内での小売業務への従事を全面禁止した。これは、特に中国商人のロシア市場での活動を制限するものと解されている。このような形式の輸出行為は、中口国境地帯だけでなく、ロシアの大都市に多くみられている。2009年6月には、モスクワの大市場「チェルキゾン」が衛生基準違反を口実に閉鎖されたが、これは灰色通関を通して流入した商品の販売に対するロシア政府の対応であった。

③ 黒龍江省の貿易における対ロシア貿易の位置

黒龍江省全体の貿易も対ロシア貿易同様、1990年代半ばからの低迷期（1994～1999年）の間20億米ドル～24.6億米ドルの間で低迷）と、2000年代初めからの急速な発展（2000～07年の間の29.9億米ドル～73億米ドル）の時期に分けることができる（図2参照）。1990年代を通じて貿易額が最高値であった1993年と貿易額が最も少なかった1998年の間に、輸出も輸入も同じような低下を示したが（1993～1998年の間各々46%、32%の減少）、発展期（1999～2007年の間）には輸出は輸入を大きく上回る伸びを示した（各々12.9倍、四倍の増大）。特に2005年以降（2007年）の輸出の対前年増加率は輸入を大きく上回るようになった。このような黒龍江省全体の貿易推移は、図2にみるように、黒龍江省貿易の五割以上を占める対ロシア貿易の推移に連動していることは疑う余地がない。1990年代の停滞期には対ロシア比率が30%を割る年もあったが、2001年以降は常に50%を超え、2007年にはこれまでで最

高の62%に達した。

黒龍江省の経済が発展し（地域総生産の拡大）、さらに貿易が拡大するという条件下での対ロシア貿易の比率の増加は、対ロシア貿易の拡大が黒龍江省の経済に大きな影響を与えたということを、直感的には示しているだろう。一般に、地域総生産と貿易の動きを比較することによって、地域経済に対する貿易の影響を示すことができるが、黒龍江省の場合、地域総生産と貿易では異なる貨幣表示がなされており、統計に基づいて両者の関係を厳密に比較することはできない。そこで、さまざまな資料から断片的に発表されている黒龍江省の貿易依存度（地域総生産に占める貿易の比率）によって見てみると、黒龍江省の経済における貿易の役割は近年急激に増大していることが分かる。2001年には貿易依存度は8.3%であったが、2007年には20.8%にまで増大した。しかし、黒龍江省の場合、このことはただちに黒龍江省経済にとって重要な貢献をしているとみなすことはできない。なぜなら、黒龍江省の貿易額は、省内に設置されている税関に通関手続きした額であり、必ずしも地域の総生産とは連動していない。たとえば、黒龍江省の主要な輸出品は衣料・靴などの軽工業品であるが、これら商品の多くは黒龍江省で生産されたものではなく、域外生産であるといわれている。黒龍江省統計局のレポート（<http://www.hlj.stats.gov.cn/jjfx/zlfx/4829.htm>）によれば、対ロシア辺境貿易の輸出に占める地場商品の比率は20%ほどである。とはいえ、貿易の拡大が黒龍江省経済に一定の貢献をしていることは間違いないだろう。また、より小さな地域単位である国境都市にとっては、ロシア人観光客を相手とする第三次産業（対ロシア貿易の仲介、飲食、宿泊など）の発展によって大きな利益を受けている。このようなサービス産業への就業を求めて人口の流入もみられている。たとえば、黒龍江省の対ロシア貿易の最大の基地のひとつである黒河市では1997年の地域工業総生産に占める第三次産業の比率は32.5%であったが、2006年には四五.9%にまで高まった。また、綏芬河市では2006年の総人口約二万人のうち常住人口は七万人であり、残



ロシア人バスツアー

り六万人は外部地区から流入してきた非常住人口である。

2 中国の対ロシア貿易における黒龍江省の位置

中国の対ロシア貿易は一九九〇年代には停滞したが、二〇〇〇年以降拡大の軌跡に入った。このような拡大傾向は、二〇〇二年までは輸入の輸出を上回る高い伸びによって主導されたが、二〇〇三年以降は、輸出の増加率が輸入を上回り始め、一九九三～二〇〇七年では総額六・三倍、輸出一・〇・六倍、輸入四倍であった。二〇〇〇年からの拡大軌跡を一九九九年比で見ると、輸出一九倍、輸入四・七倍であり、一九九〇年代以降の貿易拡大は二〇〇〇年代以降の輸出の急激な増加によるものであることが分かる(付表1)。一方、黒龍江省の対ロシア貿易は、すでに述べたように一九九〇～二〇〇七年の間に輸出三五・二二倍、輸入三・七三倍に拡大しており、二〇〇〇年以降の中国の対ロシア貿易の拡大には、黒龍江省の対ロシア貿易の拡大(特に輸出面)が大きく作用したことを示している。

上述した一九九〇年代以降の黒龍江省の対ロシア貿易の推移の下で、中国の対ロシア貿易に占める黒龍江省の比率は、一九九八年には二・二二%にまで低下したが、一九九九年に前年に比べて約三・八ポイント上昇した後増加し続け、二〇〇七年には二・二三%に達した(付表1)。特に、輸出に占める黒龍江省の比率の伸びは急激で、一九九八年に九・六%にまで低下していたが、二〇〇〇年以降は常に二〇%を超え、二〇〇五年以降は三割近くを維持している(二〇〇七年は二八・七%)。これに対し、輸入に占める黒龍江省の比率は、一九九八年の一三・六%から一九九九年には若干増加したものの(二六・六%)、二〇〇〇五年以降は二二～二三%に停滞している(二〇〇七年は二三%)。

●まてめと若干の展望

黒龍江省の対ロシア貿易は、黒龍江省のみならず、中国の対ロシア貿易においても重要な位置を占めている。中口の公的貿易機関同士による協定貿易(辺境貿易)として一九五〇年代後半に始まった

対ロシア貿易は、国内外の環境変化による中断や停滞を経ながらも近年急激な増加傾向にある。このような背景には、一九九〇年代初めに中国の開放政策が沿辺(内陸国境)地帯にまで拡大されるに伴い、優遇税制を伴う「辺境貿易」制度が確立され、国境小都市もその恩恵を受けるようになったことがある。また、衰退し続けていたロシア経済が一九九〇年代後半から急速に復興・発展し始めたこと、中口国家間関係の改善(善隣友好協力条約の締結や領土問題の完全解決など)も有利に影響した。

中国国境地区では、「辺境小額貿易」が発展するとともに、「辺民互市貿易区」が設置され、多くのロシア人が貿易区を訪れるようになった。また、一九八〇年代末からはビザを免除された団体日帰り旅行がはじまり、多くのロシア人がこの制度を利用して旅行買物貿易を始めるようになった。この結果、ロシア人に開放された中国側の国境都市の多くでは、ロシア人を相手とする第三次産業(貿易仲介、飲食、宿泊など)が発展し、黒龍江省以外の地方からの人口流入もみられている。

黒龍江省の対ロシア貿易の発展には、辺境貿易が重要な役割を果たしてきたが(一九九七～二〇〇六年まで対ロシア貿易に占める辺境貿易の比率は八・九割)、二〇〇七年には六割にまで低下し、これに対して一般貿易等は四割近くにまで増加した。さらに二〇〇八年には、これまで辺境小額貿易に対して与えられてきた優遇税制輸入関税および間接税の半減徴収)が廃止された。すでに、黒龍江省の貿易における一般貿易の比率は辺境貿易を上回っているが、今後は、対ロシア貿易においても一般貿易が主導的な役割を担うようになると考えられる。また、近年の黒龍江省の対ロシア貿易は輸出がその成長を牽引しており、主要な輸出品は、軽工業品(衣料・靴など)と機械・電気製品である。しかし、これら商品の多くは、黒龍江省で生産されたものではなく域外生産であるため、今後の黒龍江省の経済発展にとっては対ロシア貿易における地場生産品の増加政策が重要な柱となってくるだろう。

(ひらいずみ ひでき/アジア経済研究所東アジア研究グループ)